

2014年10月29日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

**慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム) が
Web ページや Web アプリケーションの記述言語 HTML の第 5 版である HTML5 を
「W3C 勧告」として正式に公開**

安定した基盤上で、次世代のウェブテクノロジーを構築

慶應義塾大学 SFC 研究所 World Wide Web Consortium (W3C) (代表者：慶應義塾大学環境情報学部教授・学部長 村井純)は、Web 技術の国際標準化に取り組む W3C (ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム) のホスト機関として長年に渡って Web 技術の発展に貢献してきておりますが、この度、W3C は Web ページや Web アプリケーションの記述言語 HTML の第 5 版である HTML5 を「W3C 勧告」として正式に公開いたしました。

1. HTML5 勧告について

ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム (W3C) は、ウェブページやウェブアプリケーションを構築する際に使用されるフォーマット HTML の第 5 版である HTML5 を勧告として公開し、オープン・ウェブ・プラットフォームの礎を築きました。HTML5 は、アプリケーション開発者やアプリケーション産業がこの先何年に渡って信頼するに足る、アプリケーション開発のための機能を提供します。HTML5 は今や幅広いデバイスで、そして世界中のユーザが利用可能であり、かつ豊富な機能を持つアプリケーションの開発コストを削減します。

W3C ディレクターを務めるティム・バーナーズ＝リーは、「ビデオやオーディオをブラウザ上で見たり、ブラウザ上で通話をするのは、今や当然の事として受け止められている」と述べています。「写真や店舗の共有、ニュースの入手、情報の検索はどこからでも、どのデバイスからでも可能にすることを期待しています。HTML5 とオープン・ウェブ・プラットフォームはユーザの更なる期待に応えます。」

近年、紙ベースの書籍に代わって電子書籍が一般的に利用され始めておりますが、電子書籍コンテンツ記述の標準である EPUB 形式は HTML5 にもとづくデータ形式であることから、W3C においても電子書籍コンテンツの国際化対応に向けた対応が進んでおります。例えば、新聞や文庫本等で一般的に用いられている縦書きテキストレイアウトやルビを電子書籍で表現するための取り組みが行われております。

電子書籍が当たり前になってきた時代に、日本の伝統的文化とも言える「縦書表現」への対応の高度化を図るという意味で、HTML5 が W3C 勧告として正式公開されたことは、Web 技術の国際化対応において画期的なマイルストーンの達成であると言えます。

HTML5 勧告 W3C プレスリリース：

<http://www.w3.org/2014/10/html5-rec.html.ja>

W3C HTML5 勧告公開発表仕様：

<http://www.w3.org/TR/2014/REC-html5-20141028/>

2. HTML5 について

HTML5 は以下を含めた多様な新機能をもたらします：

- ・ウェブ上で利用されるビデオや音声情報をプラグイン不要で再生
- ・プログラム可能な方法でビットマップ図形を二次元描画（グラフ、ゲーム用グラフィックス、その他画像の動的描画）
- ・SVG（スケーラブル・ベクター・グラフィックス） および MathML（数式記述）の HTML5 文法としてのサポート
- ・東アジア地域向けのテキスト組版（Ruby）
- ・機能豊富なアプリケーションにおけるアクセシビリティの担保

HTML5 は何年にも渡り活用されています。2014 年 VisionMobile 社(英)の調査では、調査に協力したデベロッパの 42%が、HTML と CSS、JavaScript の組み合わせをモバイル・アプリケーションの一部、或いは全てに使用していると発表しています。ガートナー(米)では、HTML5 は 2015 年と 2016 年のモバイル技術や機能としてトップ 10 の一つであると述べ、「HTML5 は、複数のプラットフォーム間でアプリケーションを提供する企業に取り不可欠な技術である」と伝えています。

2012 年 12 月に、W3C が HTML5 の仕様定義完了を発表してからの 22 ヶ月間、W3C のコミュニティは「一度書けばどこでも展開可能」ということを保証するため、HTML5 テストスイートに 10 万以上ものテストを追加しました。Test the Web Forward のコミュニティは、現在もオープン・ウェブ・プラットフォームの相互運用性を推進すべく、継続的にその活動を続けています。

HTML5 勧告では、60 以上の企業が W3C の特許方針の基に、ソフトウェアを実装する人達が使用料の支払いを必要としないロイヤリティフリーのライセンスに同意しています。ウェブ技術を使う開発者たちにとって使用料が発生しない事は、ウェブ・プラットフォームの進化を促進させる必要な事項でもあります。

3. 次のステップ：開発者のアプリケーション基盤、ウェブの新しい応用事例

HTML5 は既に開発者達に幅広く展開されていますが、W3C はオープン・ウェブ・プラットフォームの名に基づき、既にその先を見据えて議論を重ねています。それはプラットフォームを超えたパワフルなアプリケーションの開発費を削減する事です。10 月の W3C ブログ記事で W3C CEO の Jeffrey Jaffe はこう述べています。「HTML5 は完了した。W3C は開発者がすぐにも成功を収めるために、オープン・ウェブ・プラットフォームをより強化しなければならない。」それらの優先順位を実行するためには、「アプリケーション基盤を次世代のプラットフォームとして強化しなければならない。」と以下を挙げています。

- ・セキュリティとプライバシー：個人認証、暗号、多要素認証、プライバシーの保護
- ・ウェブデザインと開発：次世代の HTML、スタイル、レイアウト、グラフィックス、アニメーション、タイポグラフィ
- ・デバイス間の相互運用性：Bluetooth や NFC、バイブレーションなどのハードウェアやセンサーへのアクセス
- ・アプリケーションのライフサイクル：オフライン時の動作、プッシュ通知、ジオフェンシング、同期などをバックグラウンドで実行するタスク
- ・メディアやリアルタイムのコミュニケーション：WebRTC (Web Real-Time Communications) やメディアのストリーミング
- ・パフォーマンスとチューニング：プリロードやレスポンスデザインのプロファイリングや拡張性への突破口
- ・ユーザビリティとアクセシビリティ：ウェブがすべての人にとってアクセシブルであること、世界中の言語をサポートすることを保証

・各種サービス：ソーシャルウェブ、ペイメント(支払)、アノテーション(注釈)、ウェブ上のデータ(オープン・データやリンクト・データなど)
W3C はこれらの新しい枠組みを、今年 10 月末に開催される例年の技術会議(Technical Plenary Advisory Committee Meeting)で議論します。

数々の組織も W3C の内外を問わず、毎日のように提案されているウェブの新しい機能を組み込む事を容易にしています。W3C はペイメント(支払)、自動車、電子書籍、通信、エンターテインメントの各産業のユースケースに適応できるべく、その発展を進めています。それと同時に、4,500 名のエンジニアが 180 を超える W3C Community Group と W3C Business Group において新たな発想の基に活動を続けています。

4. ワールド・ワイド・ウェブ・コンソーシアム (W3C) について

World Wide Web Consortium (W3C) は、Web 標準化の開発を目的とし、会員組織、フルタイムスタッフ、および公的団体が連携する国際的なコンソーシアムです。W3C は、Web の長期的な成長の確保を目的とした Web 標準およびガイドラインの作成を通じ、使命に尽力しています。Open Web Platform は、現在、我々が最も注力している分野です。400 を超える組織が、本コンソーシアムの会員として参加しています。W3C は慶應義塾大学のほか、米国 MIT Computer Science and Artificial Intelligence Laboratory (MIT CSAIL : マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所)、フランス European Research Consortium for Informatics and Mathematics (ERCIM : 欧州情報処理数学研究コンソーシアム)、中国の北京航空航天大学 (Beihang University)により共同運営されており、各国に W3C オフィスを設置しています。詳細については、<http://www.w3.org/>をご覧ください。

〈問合せ先〉

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C 事務局
TEL 03-3516-2504 FAX 03-3516-0617
E-mail : keio-contact@w3.org

〈配信元〉

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担当
TEL 0466-49-3436
E-mail : kri-pr@sfc.keio.ac.jp